

最終回

綾ユネスコエコパーク

まちづくりネットワーク協議会

令和5年6月号から、私たち「綾ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会」の登録団体の活動を本誌「ユネスコエコパーク通信」で紹介してきました。

当協議会はもとも、福祉・観光・伝統文化・産業など各分野における綾のまちづくりへの貢献を目指して自立的に活動している団体が集まり、活動報告などを通して互いに活動への理解を深め支援し合おうと立ち上がった協議会です。現在16団体が登録しています。

各団体によって活動する分野や目的は異なり、例えば「綾・農業寺子屋」や「綾スマイルカレー会」などの子どもたちや地域の皆さんに対し貢献している団体、「綾雛山まつり実行委員会」や「照葉樹林マラソン実行委員会」などの地域資源を生かしたイベントの企画・運営を行う団体、自然体験や景観づくりといった豊かな自然環境を学び生かす取り組みを行っている団体などがあります。それぞれ、地域の特色や課題をとらえ、地道に、そして楽しく活動が続けているところです。

今年は協議会発足から5年目。会議を重ねるごとに、協議会全体で何らかの新たな取り組みに挑戦しようという

意見が出てきました。これは、多忙な中でも、「地元をもっと良くしていきたい、何かしたい」という熱い地元愛によるものだと思います。こうした共通の思いや目的を持った人たちと活動できることに、個人的に大きな喜びと未来への可能性を感じています。

また、コロナ禍の間にも、私たちと同じように「綾のために」という思いで活動を始められた個人・団体も少なくないと思います。当協議会としては、さまざまな団体と繋がって刺激し合い助け合うことが、まちを元気にする底力になっていくと考えます。

活動する分野や考え方にはそれぞれ違いがあっても、活動の根底に「綾愛」があることは皆同じです。まちを元気にするために、「綾人」である私たちが元気でなければいけません。ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会は、これからも活動状況などを広く発信しながら、新たな一歩を元気に踏み出したいと考えています。

綾ユネスコエコパーク
まちづくりネットワーク協議会

会長 小野 真敬

※協議会の団体紹介の連載は終わります

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp>

※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
休館などの情報はホームページで随時更新します



アマサギ

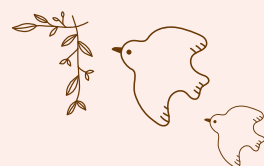
Column

初夏に日本の暖かい地域で見ることが出来る渡り鳥。通常は体全体が白く、コサギなど他の小型のサギと区別がしにくいのですが、繁殖期にオス・メス共に、頭から胸、背中にかけて、羽が薄いオレンジ色（あめ色）に変わるため、この季節だけは簡単に見分けることができます。

海外では野生動物のまわりを歩きまわり、動物の体について虫や、飛び出してくる小動物を食べています。日本でも、かつては農作業に使われていた馬や牛の周りにいました。今では耕運機のおとを追いかけエサを探するなど、場所や時代が変わっても生きていくためのたくましい姿勢は変わらないようです。



綾小・中学校の自然学習



綾小・中学校では、未来の綾町を担う人財育成のための一貫した取り組み「綾町ふるさとキャリア教育」が行われています。ユネスコエコパーク推進室は毎年、講座や野外実習を通して各学年のテーマ学習を支援しています。

小学3年生には「綾の森、生き物を知る」というテーマで、綾ユネスコエコパークセンターを案内しながらさまざまな森の生き物の話をクイズ形式で紹介。4年生には、「水」に着目した観察会や講話などを行っています。

町中心部を自分の庭として捉え芝生広場を整備・活用していく「まちにわプロジェクト」に取り組み6年生には、プロジェクトの中で地元の自然環境や歴史などを紹介する機会が増えました。

中学校では1年生を中心に、他地域との比較を通じて「自然と共生するまちづくり」の理念

や取り組みを理解してもらうための講座や実習を行っています。例えば、綾ナチュラルガーデンの植栽活動の見学や、「綾の照葉樹林プロジェクト」でのドングリ苗木の育苗、イオンの森での環境学習などです。里山や中心部におけるさまざまな活動に参加することで、実感を伴う理解に繋がればと期待しています。

綾小・中学校はユネスコスクール加盟校です。ユネスコエコパークと連携した独自の多様な学習を積み重ねること、で地元のことを深く理解し、未来の「いのち豊かなまちづくり」を支える子どもたちを育てていきたいと考えています。



6年生のまちにわプロジェクト



イオンの森での環境学習



小学生のユネスコエコパークセンター見学

